

# 平成27年度函館市事業評価調書

平成27年6月作成

整理番号	84	事業名	都市空間形成推進事業(美しいまちづくり検討会関係経費)		事業の性質別	裁量的経費	区分			
予算事項名	大事項	都市景観形成推進費		中事項	都市空間形成推進費		部課名	都市建設部まちづくり景観課		
事業開始年度	平成 23 年度	根拠法令等	あり	<input type="checkbox"/> 法律・政令・省令名( ) <input type="checkbox"/> 道条例, 規則, 要綱等( ) <input checked="" type="checkbox"/> 市条例, 規則, 要綱等(函館市美しいまちづくり検討会設置要綱)					電話番号	21-3357

## 1. 事業の目的・必要性と内容 (PLAN) ※この事業を行う目的・必要性は何か。どのような取組を行っているのか。

目的・必要性	【目的】 函館が持つ歴史と現代の街並みとが融合し、豊かな緑に彩られデザイン性に優れた質の高い都市空間の形成に向けて、その指針となるコンセプトの構築と美しいまちづくりの推進を図ることを目的とする。
	【必要性】 市長が掲げる施策・事業の取り組み(V市民が誇れる美しいまちをつくります 77まち全体をデザインするという手法を取り入れ、町並みを一新し、函館のまち全体が公園のような、歩いて楽しい美しいまち「ガーデンシティ・函館」の形成を目指します。)を推進するために設置した組織であり、必要である。
内容	函館の街全体、西部地区、駅前・大門地区、本町・五稜郭地区、湯の川地区、各地区を結ぶ沿道空間の都市空間形成に係るコンセプトなどを取りまとめ、市へ報告した。(平成24年10月) 市は、報告内容の分析、事業化の検討を行い、報告内容を事業に反映させるための具体的方策として、必要に応じて事業実施の際に当該検討会委員やアドバイザーからの意見聴取を行っている。また、報告内容を基に、駅前・大門地区、五稜郭地区の景観誘導の方向性を取りまとめ、景観アドバイスに活用している。

## 2. 概算総事業費 (DO:コスト) ※事業を行うための費用の状況はどうか。コストがどれくらいかかっているのか。

(単位:人,千円)

		平成24年度決算	平成25年度決算	平成26年度予算	平成26年度決算見込	平成27年度予算	平成28年度予算要求
事業費 (A)		386	292	329	53	212	212
特定財源	国・道						
	市債						
	その他						
一般財源		386	292	329	53	212	212
事業を実施するために必要な人件費 <small>※人工は小数点第3位を四捨五入しているため、実際に人工がかかっている場合も0で表示されている場合がある。</small>	職員	人工 0.20 1,502	人工 0.35 2,526	人工 0.04 292	人工 0.04 292	人工 0.05 376	人工 0.08 601
	嘱託職員	人工 0.00 0	人工 0.00 0	人工 0.00 0	人工 0.00 0	人工 0.00 0	人工 0.00 0
	臨時職員	人工 0.00 0	人工 0.00 0	人工 0.00 0	人工 0.00 0	人工 0.00 0	人工 0.00 0
	人件費 (B)	1,502	2,526	292	292	376	601
総事業費計 (A+B)		1,888	2,818	621	345	588	813

3. 活動実績 (DO:アウトプット) ※目的を達成するためにどのように取り組み、その実績はどうか。

活動指標名	単位	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度
美しいまちづくり検討委員会から意見聴取を行った事業数(平成25年度から実施)	事業	—	2	3	

4-1. 成果等 (DO:アウトカム)

※事業の成果指標は何か。

成果指標	デザイン性に優れた質の高い都市空間の形成
------	----------------------

4-2. 成果等 (DO:アウトカム) ※事業を実施し、どのような成果が得られたのか。

事業の成果等	駅前・大門地区および五稜郭地区の建築物等のデザインや色彩などについての技術的なアドバイスの方向性が明確となったほか、ハード事業だけでなく、都市空間の形成に関するソフト事業についても、都市景観の形成に配慮ができるようになった。
--------	--

5. 事務事業の点検 (CHECK)

評価項目		評価内容	評価内容の説明	評価項目		評価内容	評価内容の説明
必要性	事業の市民ニーズ	評価対象外		コスト・負担	コストの節減度	節減できている	事業の内容とコストが妥当である。
	市の関与の妥当性	評価対象外			将来コスト増減見込み	現在と変わらない	
			受益者負担の適正度	適正			
成果・有効性	成果の達成状況	達成している	都市空間の形成に向けて、より効果のある手法の検討が可能である。	執行方法	外部委託の可能性	評価対象外	
	事業目的実現のための手段	現手段も有効だが他の手段も考えられる			実施方法の効率性	評価対象外	
評価結果から明らかになった課題事項など		都市空間の形成に向けて、より効果のある手法の検討が可能である。					

6. 今後の改善策 (ACTION) ※今後改善する点は何か。どのように進めていくか。

今後の方針 (改善・見直し内容)	基本方針	(事業について) 都市空間の形成に向けて、より効果のある手法の検討が必要である。
	当面現状維持	(経費について) 現行どおり継続する。

参考:他の自治体の状況

比較参考値 (他の自治体の類似事業の状況など)	
----------------------------	--